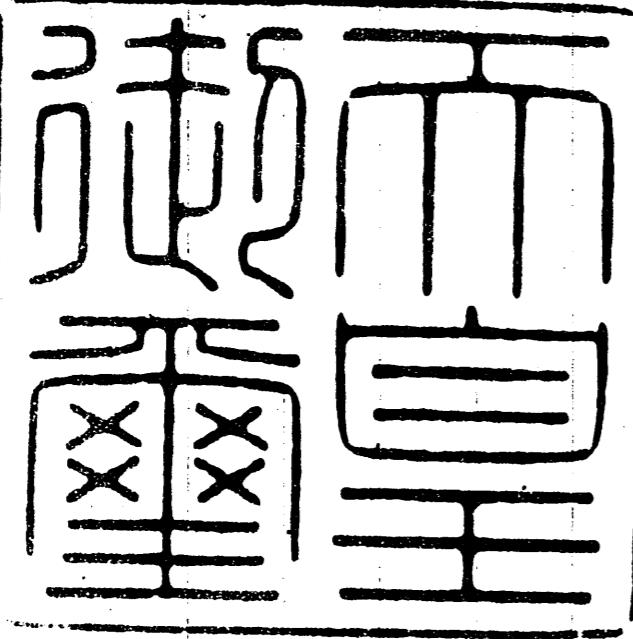


勅令第六百九十五號

朕國民醫療法施行令ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム



誠仁

昭和十七年十月二十七日

ノ

月

内閣總理大臣 東條英機
文部大臣 橋田卯彦
厚生大臣 小栗親彦

勅令第六百九十五號

國民醫療法施行令

第一章 醫師及齒科醫師ノ免許

第一條 國民醫療法第四條ノ規定ニ依ル醫師ノ免許ハ左ノ各號ノ

一二該當スル者ニ之ヲ與フ

一大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得
ル者又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立ノ醫學專
門學校醫學科ヲ卒業シタル者ニシテ一年以上診療ノ修練ヲ經
タルモノ

二 醫師試験ニ合格シタル者ニシテ一年以上診療ノ修練ヲ經タ
ルモノ

四

五

三 外國醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル帝國臣民ニシテ厚生大臣ニ於テ第一號ノ醫學専門學校醫學科ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有シ且適當ト認定シタルモノ
四 厚生大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ厚生大臣ニ於テ適當ト認定シタルモノ
前項第四號ノ規定ニ依リ指定ヲ爲スハ帝國ノ醫師ニ對シ試験ヲ要セズ醫師免許ヲ與フル國タルコトヲ要ス

醫師試験ハ左ニ掲タル者ニ非ザレバ之ヲ受クルコトヲ得ズ

一 第一項第一號ニ該當セザル私立醫學専門學校醫學科ヲ卒業シタル者

二 外國醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ノ於テ適當ト認定シタルモノ

第三條 國民醫療法第四條ノ規定ニ依ル齒科醫師ノ免許ハ左ノ各號ノ一一該當スル者ニ之ヲ與フ

一 官立、公立又ハ々部大臣ノ指定シタル私立ノ齒科醫學専門學校ヲ卒業シタル者ニシテ一年以上診療ノ修練ヲ經タルモノ
二 齒科醫師試験ニ合格シタル者ニシテ一年以上診療ノ修練ヲ經タルモノ

三 外國齒科醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ齒科醫師免許ヲ得タル帝國臣民ニシテ厚生大臣ニ於テ第一號ノ齒科醫學専門學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有シ且適當ト認定シタルモノ

四 厚生大臣ノ指定シタル外國ノ國籍ヲ有シ其ノ國ニ於テ歯科
醫師免許ヲ得タル者ニシテ厚生大臣ニ於テ適當ト認定シタル
モノ

前項第四號ノ規定ニ依リ指定ナ爲スハ帝國ノ歯科醫師ニ對シ試
験ヲ要セズ歯科醫師免許ヲ與フル國タルコトヲ准ス

歯科醫師試験ハ左ニ掲タル者ニ非ザレバ之ヲ受クルコトヲ准ズ
一 第一項第一號ニ該當セザル私立歯科醫學専門學校ヲ卒業シ
タル者

二 外國歯科醫學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ歯科醫師免許ヲ得
タル者ノ中第一項準三號又ハ第四號ニ該當セザル者ニシテ厚
生大臣ニ於テ適當ト認定シタルモノ

第三條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ醫師試験又ハ歯科醫師試験
ヲ受クルコトヲ得ズ

一 無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑
法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

二 懞者、聾者及盲者

第四條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者、醫事ニ關シ
罰金ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ
ハ醫師試験又ハ歯科醫師試験ヲ受クルコトヲ許サザルコトアル
ベシ。

第五條 本章ニ規定スルモノノ外醫師及歯科醫師ノ免許ニ關シ必
要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 科名専門ノ標榜

第六條 國民醫療法第十三條ノ規定ニ依ル科名専門ノ標榜ハ左ノ各號ノ一二該當スル者ニシテ標榜セントス・ル科目ニ付相當ノ學識技能ヲ有スト認メラルモノニ之ヲ許可ス

一 免許ヲ受ケタル後十年以上診療又ハ醫學ノ研究ニ從事シタル者ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ診療ノ指導ヲ受ケタルモノノ前號ニ該當セザルモノニ之準ズベキ經歷ヲ有スル者

第七條 科名専門ノ標榜ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一二該當スル場合ハ厚生大臣ハ其ノ許可ヲ取消スモノトス

- 一 虛偽又ハ不正ノ事實ニ基キ許可ヲ受ケタル場合
- 二 引擣キ科名専門ヲ標榜セシムルコトヲ不適當ト認ムル場合

第八條 本章ニ規定スルモノノ外科名専門ノ標榜ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 指定業務ノ從事命令

第九條 國民醫療法第二十二條ノ規定ニ依リ醫師又ハ歯科醫師ノ從事スペキ業務トシテ厚生大臣ノ指定スルハ國、地方公共團體、日本醫療團又ハ厚生大臣ノ指定スル者（以下指定事業者ト稱ス）ノ行フ醫療及保健指導ニ限スル業務ニ限ル

第十條 厚生大臣國民醫療法第二十二條ノ規定ニ依リ從事命令ヲ爲サントスル場合ニ於テハ左ニ掲タル事項ヲ定メ命令ヲ受クベキ者ニ對シ之ヲ爲ス

- 一 從事スペキ業務ノ内容及場所

内

閣

二 従事スベキ業務ヲ行フ者ノ名稱又ハ名

三 従事スペキ期間

四 其ノ他必要ト認ムル事項

前項ノ命令ハ本人ノ住所地ヲ管轄スル地方長官ナシテ之ヲ通達セシム

第十一條 従事命令ノ取消、變更又ハ解除ニ付必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 従事命令ヲ受ケタル者業務ニ従事スル場合ニ於テハ國ニ使用セラル者ニ在リテハ當該官衙ノ長、地方公共團體ニ使用セラル者ニ在リテハ當該公共團體ノ長、日本醫療團ニ使用セラル者ニ在リテハ日本醫療團總裁、指定事業者ニ使用セラ

ルル者ニ在リテハ指定事業者ノ指示ニ従フベシ

第十三條 従事命令ヲ受ケタル者ニ對スル給與ハ當該醫師又ハ薦科醫師ノ從事スル業務ヲ行フ官衙ノ長、地方公共團體ノ長、日本

本醫療團總裁又ハ指定事業者之ヲ支給スルモノトス

第十四條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ從事命令ヲ受ケタル者ヲ使用スル地方公共團體ノ長、日本醫療團總裁又ハ指定事業者ニ與シ從事命令ヲ受ケタル者ノ使用又ハ給料其ノ他ノ事項ニ關シ命令ヲ爲スコト得

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ國民醫療法第二十二條ノ規定ニ依ル從事命令ハ之ヲ爲サズ

一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（未ダ入營セザル者ヲ除ク）

及召集中ノモノ（召集中ノ身分取扱ヲ受クル者ヲ含ム）

二 陸海軍學生徒

三 陸海軍軍屬

四 醫療關係者徵用令ニ依リ徵用中ノ者

五 法令ニ依リ拘禁中ノ者

從事命令ヲ受ケタル後前項第一號乃至第四號ニ該當スルニ至リタルトキハ從事命令ハ解除サレタルモノト看做ス

第十六條 厚生大臣從事命令ニ關シ必要アリト認ムルトキハ關係者ヨリ必要ナル報告ヲ徵スルコトアルベシ。

第四章 報酬及給與

第十七條 厚生大臣ハ病院若ハ診療所ノ開設者又ハ醫師若ハ歯科

醫師ヲシテ其ノ請求シ得ベキ醫療ノ報酬ニ關シ醫師會又ハ歯科醫師會ノ定ニ依ラシムル命令ヲ發スルコトヲ得

第十八條 厚生大臣又ハ地方長官ハ醫療ノ報酬ニ付適正ナラザルモノアリト認ムルトキハ病院若ハ診療所ノ開設者又ハ醫師若ハ歯科醫師ニ對シ之ガ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十九條 厚生大臣ハ醫師又ハ歯科醫師ノ給與ニ關シ醫師又ハ歯科醫師ヲ雇傭スル者ニ對シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第二十條 厚生大臣又ハ地方長官ハ醫師又ハ歯科醫師ノ給與ニ付適正ナラザルモノアリト認ムルトキハ當該醫師又ハ歯科醫師ヲ雇傭スル者ニ對シ之ガ變更ヲ命ズルコトヲ得

附則

内閣

閣

第一條 本令ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 明治三十九年勅令第二百四十四號及大正十五年勅令第十三號ハ之ヲ廢止ス

第三條 醫師法第一條第一項第一號又ハ齒科醫師法第一條第一號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル私立醫學専門學校又ハ私立齒科醫學專門學校ハ第一條第一項第一號又ハ第二條第一項第一號ノ規定ニ依リ文部大臣ノ指定シタル私立醫學専門學校又ハ私立齒科醫學專門學校ト看做ス

第四條 左ニ掲タル者ニ對シテハ第一條又ハ第二條ノ規定ニ拘ラズ從前ノ例ニ依リ醫師免許又ハ齒科醫師免許ヲ與フ

一本令施行ノ際現ニ醫師法第一條第一項第一號若ハ第二號又

ハ齒科醫師法第一條第一號若ハ第二號ニ該當スル者

二 本令施行ノ際現ニ大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ又ハ
醫師法第一條第一項第一號ニ掲タル醫學専門學校醫學科若ハ
齒科醫師法第一條第一號ニ掲タル齒科醫學専門學校ニ
在學スル者ニシテ引續キ在學シ學士ト稱シ又ハ卒業スルニ至
リタルモノ

第五條 第一條又ハ第二條ノ規定ノ適用ニ付テハ本令施行後三年以内ニ醫師試験又ハ齒科醫師試験ニ合格シタル者ニ關シテハ診療ノ修練ノ要件ハ之ヲ必要トセズ

第六條 本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ齒科醫師試験ノ受験資格ナ有スル者及由學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒

業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲ入學資格トスル修業年限三箇年以上ノ齒科醫學校ニ在學中ノ者ハ第二條第三項ノ規定ニ拘ラズ昭和二十七年十二月三十一日迄仍齒科醫師試験ノ受驗資格ヲ有ス

第七條 學校齒科醫及幼稚園齒科醫令中左ノ通改正ス

第三條第二項中「齒科醫師（齒科醫師法第十一條ノ二ノ規定ニ該當スル醫師ヲ含ム）」ヲ「齒科醫師（國民醫療法第八條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル醫師ヲ含ム）」ニ改ム

第八條 醫療關係者職業能力申告令中左ノ通改正ス

第二條第一項中「醫師法」ヲ「國民醫療法」ニ、「齒科醫師法」ヲ「同法」ニ改ム

第九條 醫療關係者徵用令中左ノ通改正ス

第二條第一項中「醫師法」ヲ「國民醫療法」ニ、「齒科醫師法」ヲ「同法」ニ改ム